

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名：中部横断自動車道（八千穂～佐久南） <small>ちゅうぶおうだんじどうしゃどう やちほ さくみなみ</small>	事業区分：	高規格A	国土交通省 関東地方整備局
起終点：自：長野県佐久穂町大字畑 <small>ながのけんさくほまちおおあざはた</small> 至：長野県佐久市大字桜井 <small>ながのけんさくしおおあざさくらい</small>		延長	14.6km
<b>事業概要</b> 中部横断自動車道は、静岡県静岡市から長野県佐久市に至る延長約132kmの高速自動車国道である。当路線は、東名・中央・上信越自動車道を連結し、内陸部と臨海部の連携を強化し、地域間交流の拡大をはじめ関東地方の広域的なネットワークを形成するとともに、現道の渋滞緩和、救急医療体制の支援、物流の効率化など社会経済活動の発展に寄与する路線である。			
H15年度事業化		H8年度都市計画決定	
H17年度用地着手		H18年度工事着手	
全体事業費	約513億円	事業進捗率	48%
供用済延長			-
計画交通量	7,900～10,500台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	1.3	総費用 (残事業)/ (事業全体) 259/514億円 事業費：224/478億円 維持管理費：35/35億円
	(残事業)	2.6	
総便益 (残事業)/ (事業全体)		673/673億円	
基準年		平成22年	
走行時間短縮便益：475/475億円 走行費用減少便益：146/146億円 交通事故減少便益：52/52億円			
<b>感度分析の結果</b> 残事業について感度分析を実施 交通量：B/C= 2.4～2.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C= 2.4～2.8 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C= 2.4～2.8 (事業期間 ±20%)			
<b>事業の効果等</b> (1) 高速ネットワークの形成・広域防災 ・上信越道、中央道、東名高速の3本の高規格道路を連絡するとともに、首都圏の環状ネットワークを形成。 (2) 交通混雑の緩和 ・並行する国道141号では、全国平均の約3倍の渋滞が発生。 ・当該道路の整備により、並行する国道141号の渋滞緩和が見込まれる。 (3) 安全安心な通行の確保 ・並行する国道141号の野沢交差点では、全国平均の約5倍の死傷事故が発生。 ・当該道路の整備により、交通の輻輳を要因とする事故の減少が見込まれる。 (4) 救急医療の支援 ・周辺地域の救急搬送件数は、増加傾向。平均搬送時間も全国平均、県平均を上回る。 ・第三次救急医療機関である佐久総合病院へのアクセス性が向上し、救命率が改善。			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 県知事の意見：中部横断自動車道整備による、高速交通ネットワークの形成は、地域産業に活力を与え、地域の発展に大きく寄与するとともに、重篤患者の救急医療機関への搬送時間を短縮する等、「命をつなぐ」効果も期待されています。 つきましては、当該区間の事業を継続するとともに、早期完成を強く要請します。 また、ミッシングリンクを解消し、整備効果を最大限発現させるため、基本計画区間である(仮称)長坂JCT～(仮称)八千穂IC区間を早期に整備計画区間へ格上げし、整備推進されますよう併せて要請いたします。			
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 事業の継続を承認する。			
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成15年12月第1回国幹会議において、新直轄方式による整備に位置づけられた。また、平成18年9月に整備計画が変更され、地域活性化IC(臼田IC、佐久町IC：仮称)が連結許可された。			
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成21年2月に臼田トンネル(仮称)が貫通。順調な用地取得、埋蔵文化財調査により、引き続き、橋梁工事、改築工事を推進する。			
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 用地の取得は約91%完了している。引き続き、全線供用に向けた事業促進を図る。			
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 佐久南IC部の長大橋梁の縮小や縦断勾配の見直し(法枠工実施面積の削減、橋梁延長の縮小、土工規模の縮小)等により、約70億円のコストを縮減。			
対応方針：事業継続			

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、コスト縮減の内容、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。